



平成31年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成31年2月7日

上場会社名 (株)東京放送ホールディングス
 コード番号 9401 URL <http://www.tbsholdings.co.jp>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 佐々木 卓

問合せ先責任者 (役職名) 経理局経理部長 (氏名) 小杉 尚

TEL 03-3746-1111

四半期報告書提出予定日 平成31年2月13日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成31年3月期第3四半期の連結業績(平成30年4月1日～平成30年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
31年3月期第3四半期	274,911	1.2	15,943	14.3	26,191	3.2	17,400	2.8
30年3月期第3四半期	271,764	2.8	18,593	10.1	27,054	18.3	17,903	23.1

(注) 包括利益 31年3月期第3四半期 29,601百万円 (%) 30年3月期第3四半期 99,785百万円 (100.5%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
31年3月期第3四半期	99.62	
30年3月期第3四半期	102.51	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
31年3月期第3四半期	739,976	564,738	74.0
30年3月期	821,737	600,950	71.2

(参考) 自己資本 31年3月期第3四半期 547,907百万円 30年3月期 585,054百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
30年3月期		15.00		15.00	30.00
31年3月期		16.00			
31年3月期(予想)				16.00	32.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成31年3月期の連結業績予想(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	367,000	1.4	18,000	4.3	27,400	1.8	17,500	1.8	100.19

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- | | |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 無 |
| 以外の会計方針の変更 | : 無 |
| 会計上の見積りの変更 | : 無 |
| 修正再表示 | : 無 |

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	31年3月期3Q	174,709,837 株	30年3月期	174,709,837 株
期末自己株式数	31年3月期3Q	42,594 株	30年3月期	41,774 株
期中平均株式数(四半期累計)	31年3月期3Q	174,667,744 株	30年3月期3Q	174,648,811 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想については、添付資料P3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	7
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報等)	9
(重要な後発事象)	10
3. 補足情報	12
(株)TBSテレビ第3四半期事業収入の内訳	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

わが国の経済は、企業収益や雇用環境の改善を背景に緩やかな回復基調が続きましたが、通商問題の動向が世界経済に与える影響や、海外経済の不確実性、金融資本市場の変動の影響により、先行き不透明な状況となっております。

このような経済環境下、当社グループの当第3四半期連結累計期間の連結業績は、売上高2,749億1千1百万円（前年同期比1.2%増）、営業利益159億4千3百万円（同14.3%減）、経常利益261億9千1百万円（同3.2%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は174億円（同2.8%減）となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

◇放送事業セグメント

放送事業セグメントの当第3四半期連結累計期間の売上高は1,632億6千8百万円（前年同期比0.5%減）、営業利益は、28億7千1百万円（同50.9%減）となりました。

放送事業の主力である㈱TBSテレビは、当第3四半期連結累計期間のタイム収入が666億7千9百万円（前年同期比3.0%増）、スポット収入が618億6千5百万円（同3.3%減）となりました。タイムセールスでは、レギュラー番組がカロリーアップを果たしたほか、「2018 FIFA ワールドカップ ロシア」、「アジア大会2018 ジャカルタ」、「2018世界バレー」や、年末特別番組などの単発セールスが寄与し、前年実績を上回りました。スポットセールスでは、広告主の関東地区投下量が前年同期比3.5%減と低調に推移する中、前年を割り込む結果となりました。業種別の売上げでは、「情報・通信・放送」「金融」「外食・サービス」などの業種が前年実績を上回る一方で、「医薬品」「食品」「化粧品・トイレットリー」「酒・飲料」といった業種が前年比マイナスとなっています。

㈱BS-TBSは、当第3四半期連結累計期間で売上高121億9千6百万円（前年同期比3.5%減）、営業利益は16億9千1百万円（同9.8%減）となりました。平成30年12月1日よりBS4K放送を開始しました。2K放送では、10月改編に伴いタイムレギュラーセールスが好調に推移し、ショッピングも増収基調を維持しました。一方、タイム単発セールスではゴルフトーナメントの減少などが響いて減収となり、スポット市況も不調のため、収入全体では減収となりました。利益面では、4K放送開始に伴う費用が増加する中、コストコントロールに努めましたが、減益となりました。

㈱TBSラジオは、開局翌年の1952年から60数年に渡り続けてきたプロ野球ナイター中継の編成を終了するという歴史的改編を行いました。後継番組の「アフター6ジャンクション」が定着し、12月のビデオリサーチ首都圏聴取率調査においてもトップを記録しました。収入面では10月以降のスポット市況の悪化によりスポットセールスが苦戦し減収となり、利益面でも減益となりました。

◇映像・文化事業セグメント

映像・文化事業セグメントの当第3四半期連結累計期間の売上高は994億5千4百万円（前年同期比3.9%増）、営業利益69億6千4百万円（同9.0%増）となりました。

興行では、アジア初の360度回転劇場「IHIステージアラウンド東京」において、「新感線☆RS『メタルマクベス』」が大晦日に千秋楽を迎え、『髑髏城の七人』シリーズと合わせ、平成29年3月から1年9ヶ月に渡るロングラン公演で70万人を動員、好評のうちに幕を閉じました。また、世界的ヒットミュージカル「メリー・ポピンズ」や「コーラスライン」、「ハイキュー!!」シリーズ、「NO.9-不滅の旋律-」等の舞台企画が大ヒットとなりました。また、展覧会では、「ルーベンス展-バロックの誕生」が23万人を超える来場者を迎えています。映画事業では、9月公開の「コーヒーが冷めないうちに」（出演：有村架純ほか、監督：塚原あゆ子）が興収14億円超え、11月公開の「スマホを落としただけなのに」（出演：北川景子ほか、監督：中田秀夫）も興収19億円を超える大ヒットとなりました。

メディアビジネス関連では、海外事業において、「SASUKE」などのフォーマット販売が引き続き好調だったほか、中国やアジア各国に対するドラマセールスが売上をけん引しました。CS事業においては、千葉ロッテマリーンズの中継終了やプラットフォーム加入者の減少に伴い減収となりましたが、横浜DeNAベイスターズの主催公式戦全試合放送やオリジナル音楽コンテンツの拡充など、視聴者増加に向けた施策を行いました。

スタイリングライフグループは、増収増益となりました。中核の小売事業「ブラザースタイルカンパニー」は、クリスマス商戦の苦戦で雑貨を中心に不調となりましたが、化粧品、衣料品が好調を維持し増収となり、利益面でも販管費が増加する中、増益を確保しました。化粧品事業は、大ヒット商品を中心に国内外ともに収益を伸ばし、売上、利益ともに前年を上まわっております。

◇不動産事業セグメント

不動産事業セグメントの当第3四半期連結累計期間の売上高は121億8千9百万円（前年同期比2.3%増）、営業利益61億3千7百万円（同4.1%減）となりました。

赤坂Bizタワーは、オフィス、商業施設とも高い稼働を維持しており、堅調に推移しております。

赤坂サカスについては、今後もTBSグループや番組をより身近に感じていただくための様々な催事を行い、放送文化の発信地としての地位を不動のものとするを旨としてまいります。

(2) 財政状態に関する説明

(資産、負債及び純資産の状況)

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における資産合計は7,399億7千6百万円で、前連結会計年度末に比べて817億6千万円の減少となりました。有形固定資産が土地の取得等により140億5千1百万円増加した一方、現金及び預金が276億4千5百万円減少、保有する株式の含み益の減少等により投資有価証券が669億7千8百万円減少したこと等によります。

(負債)

負債合計は1,752億3千8百万円で、前連結会計年度末に比べて455億4千8百万円の減少となりました。長期借入金（1年内返済予定分含む）が返済により176億円減少、保有する株式の時価の下落に伴い繰延税金負債が204億9千5百万円減少したこと等によります。

(純資産)

純資産合計は5,647億3千8百万円で、前連結会計年度末に比べて362億1千1百万円の減少となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益の計上や配当金の支払い等により利益剰余金が差し引き110億3千万円増加した一方、その他有価証券評価差額金が483億1千4百万円減少したこと等によります。

この結果、自己資本比率は74.0%、1株当たりの純資産は3,136円87銭となっております。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第3四半期連結累計期間の連結業績は、売上、利益とも、概ね期首の想定範囲内で推移いたしました。

平成31年3月期の連結業績予想につきましては、平成30年5月10日の「平成30年3月期 決算短信」で公表いたしました業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	81,850	54,204
受取手形及び売掛金	42,516	41,082
有価証券	300	700
商品及び製品	7,769	9,785
番組及び仕掛品	7,072	7,051
原材料及び貯蔵品	673	703
前払費用	10,971	9,232
その他	4,662	5,802
貸倒引当金	△157	△145
流動資産合計	155,660	128,418
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	201,667	206,532
減価償却累計額	△110,383	△113,795
建物及び構築物 (純額)	91,283	92,737
機械装置及び運搬具	85,517	86,334
減価償却累計額	△75,623	△75,136
機械装置及び運搬具 (純額)	9,894	11,197
工具、器具及び備品	30,998	31,519
減価償却累計額	△28,464	△28,801
工具、器具及び備品 (純額)	2,534	2,718
土地	84,001	96,098
リース資産	4,237	4,124
減価償却累計額	△2,523	△2,702
リース資産 (純額)	1,713	1,421
建設仮勘定	1,201	506
有形固定資産合計	190,628	204,679
無形固定資産		
ソフトウェア	5,734	5,716
のれん	16,798	15,451
リース資産	37	21
その他	1,273	1,356
無形固定資産合計	23,844	22,545
投資その他の資産		
投資有価証券	436,399	369,420
長期貸付金	240	206
繰延税金資産	2,961	2,537
長期前払費用	173	273
その他	12,014	12,089
貸倒引当金	△184	△194
投資その他の資産合計	451,603	384,333
固定資産合計	666,076	611,558
資産合計	821,737	739,976

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	39,446	36,751
短期借入金	-	183
1年内返済予定の長期借入金	18,200	1,200
未払金	12,773	12,782
未払法人税等	5,891	2,316
未払消費税等	1,377	1,295
未払費用	2,111	1,956
賞与引当金	4,964	2,322
役員賞与引当金	139	69
固定資産撤去費用引当金	73	-
その他の引当金	401	401
その他	8,004	9,643
流動負債合計	93,382	68,923
固定負債		
長期借入金	3,000	2,400
環境対策引当金	121	121
退職給付に係る負債	15,943	16,192
リース債務	679	443
繰延税金負債	92,389	71,893
その他	15,269	15,262
固定負債合計	127,403	106,314
負債合計	220,786	175,238
純資産の部		
株主資本		
資本金	54,986	54,986
資本剰余金	46,760	46,751
利益剰余金	262,138	273,169
自己株式	△54	△56
株主資本合計	363,830	374,850
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	221,405	173,091
繰延ヘッジ損益	△117	17
為替換算調整勘定	△34	△2
退職給付に係る調整累計額	△29	△48
その他の包括利益累計額合計	221,224	173,057
非支配株主持分	15,895	16,830
純資産合計	600,950	564,738
負債純資産合計	821,737	739,976

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年12月31日)
売上高	271,764	274,911
売上原価	183,926	187,334
売上総利益	87,838	87,577
販売費及び一般管理費	69,244	71,634
営業利益	18,593	15,943
営業外収益		
受取利息	15	15
受取配当金	7,790	10,041
持分法による投資利益	944	-
その他	318	1,034
営業外収益合計	9,069	11,092
営業外費用		
支払利息	288	220
持分法による投資損失	-	230
固定資産除却損	145	106
その他	173	286
営業外費用合計	608	843
経常利益	27,054	26,191
特別利益		
投資有価証券売却益	919	1,583
特別利益合計	919	1,583
特別損失		
組織再編関連費用	-	413
減損損失	15	95
特別損失合計	15	509
税金等調整前四半期純利益	27,958	27,266
法人税、住民税及び事業税	8,278	7,536
法人税等調整額	614	1,172
法人税等合計	8,892	8,708
四半期純利益	19,066	18,557
非支配株主に帰属する四半期純利益	1,162	1,157
親会社株主に帰属する四半期純利益	17,903	17,400

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成30年4月1日 至 平成30年12月31日)
四半期純利益	19,066	18,557
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	80,797	△48,268
繰延ヘッジ損益	△99	101
為替換算調整勘定	8	32
退職給付に係る調整額	△34	△13
持分法適用会社に対する持分相当額	47	△12
その他の包括利益合計	80,719	△48,159
四半期包括利益	99,785	△29,601
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	98,616	△30,767
非支配株主に係る四半期包括利益	1,168	1,165

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注1)	四半期連結損 益計算書計上 額 (注2)
	放送事業	映像・文化 事業	不動産事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	164,145	95,703	11,914	271,764	-	271,764
セグメント間の内部売上高又は 振替高	1,395	2,600	4,062	8,058	△8,058	-
計	165,541	98,304	15,977	279,822	△8,058	271,764
セグメント利益	5,846	6,391	6,400	18,639	△45	18,593

(注) 1. セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成30年4月1日至平成30年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注1)	四半期連結損 益計算書計上 額 (注2)
	放送事業	映像・文化 事業	不動産事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	163,268	99,454	12,189	274,911	-	274,911
セグメント間の内部売上高又は 振替高	1,724	2,674	3,854	8,252	△8,252	-
計	164,992	102,128	16,043	283,164	△8,252	274,911
セグメント利益	2,871	6,964	6,137	15,973	△30	15,943

(注) 1. セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

(完全子会社間の合併について)

当社完全子会社である(株)TBSスパークル、(株)エフエフ東放、(株)キャスト・プラス、(株)ジャスク、(株)ジャパンエディターズユニオン、(株)ジョブエックス、(株)チャンネルプラス、(株)TBSビジョン、(株)東放スタックス、(株)ドリマックス・テレビジョン、(株)ビジョンプラス、(株)ビューキャストは、平成31年1月1日を効力発生日として、(株)TBSスパークルを存続会社とする吸収合併を行いました。

1. 合併の要旨

(1) 合併当事企業の名称及び当該事業の内容

吸収合併存続会社 事業の内容	(株)TBSスパークル 番組制作、コンテンツ制作等
吸収合併消滅会社 事業の内容	(株)エフエフ東放 番組制作、番組の制作技術等
	(株)キャスト・プラス アナウンサー等の人材育成・プロモート・マネジメント等
	(株)ジャスク 労働者派遣事業、番組制作等
	(株)ジャパンエディターズユニオン テレビ番組等のVTR編集業務
	(株)ジョブエックス 番組制作、コンテンツ制作等
	(株)チャンネルプラス 労働者派遣事業
	(株)TBSビジョン 番組制作、コンテンツ制作等
	(株)東放スタックス 番組の制作技術、送出、ニュース編集等
	(株)ドリマックス・テレビジョン 番組制作
	(株)ビジョンプラス テレビ番組制作協力事業等
	(株)ビューキャスト 映像制作、労働者派遣事業等

(2) 合併の目的

「グループ中期経営計画 2020」で発表している「グループの構造を見直し、グループの力を結集」を実現するために、TBSグループの各子会社に分散していた番組制作機能を(株)TBSスパークルに統合しました。

(3) 合併の日程

効力発生日及び事業開始日 平成31年1月1日

(4) 合併の法的形式

(株)TBSスパークルを存続会社、(株)エフエフ東放、(株)キャスト・プラス、(株)ジャスク、(株)ジャパンエディターズユニオン、(株)ジョブエックス、(株)チャンネルプラス、(株)TBSビジョン、(株)東放スタックス、(株)ドリマックス・テレビジョン、(株)ビジョンプラス、(株)ビューキャストの11社を消滅会社とする吸収合併方式

(5) 合併後企業の名称

(株)TBSスパークル

2. 実施する会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日)及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号 平成25年9月13日)に基づき、共通支配下の取引として会計処理しております。

(重要な契約の締結)

(株)東京放送ホールディングス(以下、当社)と三菱地所(株)(以下、三菱地所)は、三菱地所が運営管理する東京都港区赤坂所在の国際新赤坂ビル及び隣接する建物の将来的な建替えに向けた事業協定書を締結いたしました。

1. 契約の目的

当社は、「グループ中期経営計画2020」の中で掲げている『TBSシナジーを生む総合メディア戦略』の一環として「赤坂エンタテインメント・シティ構想」を計画しております。これは、赤坂に新たなエンタテインメント施設や、最先端の文化発信機能を拡充し、赤坂を「世界最高の感動体験を届ける街にする」というものです。そのため、三菱地所と事業協定書を締結し、国際新赤坂ビル及び隣接する建物を再開発することを目的としております。放送事業を取り巻く環境が大きく変化する中、総合メディア企業として発展していくための、極めて重要な事業基盤形成の一つと位置付けております。

2. 契約の相手先の名称

三菱地所(株)

3. 契約の締結時期

平成31年1月

4. 契約の内容

国際新赤坂ビル及び隣接する建物の閉館を決定し、当社と三菱地所にて、概ね10年後の竣工を目指して共同で建替え計画の検討を進めてまいります。本事業では、最先端の技術等を駆使した新たなエンタテインメント・サービスを体験することのできる施設の計画等、ソフト・ハード両面から『メディアとリアルな都市空間が融合するエンタテインメント・シティ』の実現を目指して検討を行ってまいります。

5. 契約の締結が業績に与える影響

当連結会計年度の業績に与える影響は軽微であります。

3. 補足情報

株TBSテレビ事業収入の内訳 (第3四半期)

(単位: 百万円)

区分	前第3四半期 (29.4.1~29.12.31)	当第3四半期 (30.4.1~30.12.31)	比較		前事業年度 (29.4.1~30.3.31)
	金額	金額	金額	伸率	金額
テレビ	139,329	139,542	212	0.2%	184,370
タイム	64,759	66,679	1,920	3.0%	86,388
スポット	63,948	61,865	△2,082	△3.3%	83,702
コンテンツ	7,707	8,088	380	4.9%	10,331
その他	2,914	2,908	△5	△0.2%	3,948
事業	21,904	21,044	△860	△3.9%	29,727
不動産	2,309	2,224	△85	△3.7%	3,054
合計	163,544	162,810	△733	△0.4%	217,152